

第2回 知的生産性研究委員会 議事要旨

1. 日 時：平成 20年3月17日（月）15:00～17:00
2. 場 所：中央合同庁舎3号館 11階特別会議室
3. 出席者：村上委員長、川瀬幹事、杉浦副幹事、柳井副幹事
伊香賀委員、坂部委員、田辺委員、坊垣委員、高井委員、可児委員、佐藤委員、
柳原委員(代理:黒本)、市川委員、山下委員、宗本委員、森川委員、廣岡委員、
中村委員、池田委員、恵良委員(代理:篠島)、沖野委員、坂本委員、水流委員、
田中委員(代理:仲江)、土居委員(代理:大谷)、伊藤専門委員（順不同）
和泉住宅局長
事務局：国土交通省住宅局住宅生産課、(財) 建築環境・省エネルギー機構

4. 議 事：

- (1) 知的生産性研究の目的と枠組み
- (2) 各部会の活動報告
- (3) フリーディスカッション
- (4) 今後の進め方について

5. 議事概要：

議事に先立ち、和泉国土交通省住宅局長より、本研究委員会は今後の建築政策の展開に向けての貴重な第一歩で、単なる建築空間を超えて働く環境を知的効率の高いものにして世界の中での競争に対応していくための画期的な委員会であり、研究に期待している旨の挨拶があった。

(1) 知的生産性研究の目的と枠組み

村上委員長より、本委員会の研究趣旨等について以下のような説明があった。

- ・ 知的生産基盤社会では、知識の生産と知的生産性が経済の競争力を決定すること。
- ・ 建築空間の知的生産性は、産業を中心とした経済活動の基盤を支えるものとして、従来の安全、衛生、健康、快適、効率といった設計目標の枠を超え、人間の創造的活動領域に踏み込んだ設計目標にするものであること。
- ・ 知的活動と建築空間については、知的活動を情報処理、知識処理、知識創造の3階層、これに対応する建築空間・環境を現状のパラダイム下での環境維持、同パラダイム下での質の向上、新しいパラダイム下での知的創造を刺激する空間・環境の3階層のモデルとして概念を整理していること。
- ・ 環境改善による作業効率向上のもたらす利益は、そのために費やされる建築費用を大幅に上回るという研究成果があること。
- ・ 知的生産性の向上は、建築に新しい価値を創造することを求めるもので、建築におけるニューフロンティアを提供する意味もあり、そのためには説得力のある学問体系が必要であること。
- ・ 研究は、建築以外の専門家も含め学際的枠組みで、目的ごとに研究グループを構成して進めること。

(2) 各部会の活動報告

本研究委員会の下におかれた以下の部会等において検討した内容について、各部会長等から以下のような説明が行われた。

- ・ 基礎研究部会（田辺部会長）

室内の空気、温熱、光環境などの物理環境が知的生産性に及ぼす影響を心理的・生理的な側面から評価する手法を検討するため、環境への人体反応の客観的評価手法、温熱環境や光環境、建築環境への満足度が知的生産性に与える影響等についての学術的データ・エビデンスの収集や、ISO-TC205（環境デザイン）に関する情報の収集等を行った旨、説明が行われた。

- ・ 環境・設備部会（川瀬部会長）

主観的な側面から環境・設備計画が知的生産性に及ぼす影響を検討するため、国内外の文献調査書式の設定、建築環境に対する主観評価の調査のための Web ベースでの標準的調査票を作成したこと、従来よりもポジティブに知的生産性を向上させるための室内環境と建築・設備の関係についてのマトリクスの骨格を検討した旨、説明が行われた。

- ・ 建築空間部会（宗本部会長）

基礎的研究の成果を具体的な建築空間に反映させた計画方法の研究と設計知識の収集等のため、事務所・研究所の設計事例の収集、オフィスの知的生産性に関する研究やワーカーの行動パターンのモニタリング技術等の研究事例の収集、街づくりにおけるワーカー支援と価値創造についての事例研究、事務所空間の変遷と生産性向上に向けた試行例の整理等を行った旨、説明が行われた。

- ・ 経済性評価と格付部会（伊香賀部会長）

個人及び組織としての知的生産性向上に資する建築物の総合的な経済性と環境性能の評価・格付け手法を検討するため、経営・不動産事業・ビルオーナーの各視点からの知的生産性の経済性評価についての調査、知的生産性の評価の枠組みや評価項目についての調査、米国の LEED における知的生産性の扱い方の調査を行った旨、説明が行われた。

- ・ 応用部会／学習環境小委員会（伊藤専門委員）

教室環境が学習効率に与える影響を客観的・主観的評価方法により検討するため、国内外の学術論文を中心に文献調査を行い知見を整理したほか、資格試験対策予備校の教室環境と学習効率の関係を客観的評価手法及び主観的評価手法により検討した旨、説明が行われた。

- ・ 普及推進委員会（坊垣委員長）

研究の成果についてはシンポジウム等で広く発信して公表すること、第2回シンポジウムは8月6日に「新宿住友ホール」（東京）で先進的な事例も含め開催予定であること、来年度からの研究では新たに企業を含めたコンソーシアムの設立を予定しており、民間の積極的な参加を期待したい旨、説明が行われた。

(3) フリーディスカッション【主な意見】

参加委員から主に以下のような意見等があった。

- ・ 学習環境については、講義のやり方、先生の教え方なども学習環境とともに考える必要があるのではないか。また、医学の分野でも診察や手術でミスをしないうる環境、空気質、温度環境なども重要であり、職業それぞれの生産性が考慮できるなら一層興味深い。
- ・ 個人の主観的評価については個人の性格の差など出ると考えるがそれをどう客観的に整理できるかが重要。また、職場のフリーアドレス化による効率向上について100人規模の

組織で実験的に検討しているので、この研究会の成果を参考に評価をしてみたい。

- 既存のオフィスの知的生産性についての評価への適用や、その建築環境の改善方法についても研究を発展させてほしい。
- 知的創造性の高い場はザワザワ感があると言われるが、これをどう測れるか、いろいろな方法を組み合わせてセンシングできたらすばらしい。

(4) 今後の進め方について

- 事務局より、本研究は3年計画として2009年度まで研究を進め、2009年度末に一定の成果の取りまとめをする旨、研究ロードマップに基づいて各部会等の具体的取組事項を示しつつ説明が行われた。

以上